

2015 年度（第 11 回）精密工学会賞受賞業績の紹介

土 肥 俊 郎

土肥俊郎氏は、これまで長年にわたり独創的な超精密加工技術とその応用研究に従事されている。なかでも、近年の半導体デバイス製造に不可欠な技術となった超精密プラナリゼーション CMP（Chemical Mechanical Polishing）プロセス技術の研究開発とその実用化において、世界的なリーダーシップを取り同分野の発展に大きく貢献し、精密工学会などから技術賞、研究論文賞を受賞している。

同氏は、精密工学会に設立した『プラナリゼーション CMP とその応用技術専門委員会』の初代委員長を務め、研究者・技術者の教育啓蒙活動を念頭に多数の専門書籍の編集発行などの積極的な運営を行い、参加企業が最大で 121 社となる本学会最大規模の専門委員会にまで牽引し毎回の本会学術講演会ベストオーガナイザー賞や 2 回にわたり高城賞を受賞し、精密工学会に大きく貢献した。

また、CMP に関する毎年開催の国際会議（PacRim on CMP, 現在の ICPT 【International Conference on Planarization/CMP Technology】）を 2004 年に前記専門委員会が提唱・創設し、2014 年には同氏の功績記念と後進育成を目的に ICPT に「Development Of Intensified CMP & Application Award (DOI Award)」が設立された。

現在は九州大学名誉教授・特任教授として、次世代グリーンデバイス用材料とその革新的超精密加工プロセスに関する研究開発に取り組むとともに、日本学術振興会将来加工技術第 136 委員会委員長なども務められている。

以上のように、土肥俊郎氏は超精密加工技術分野の研究開発とその実用化を牽引発展させ、学術、教育、産業の各分野において顕著な貢献があり、精密工学会の名声を高めるなどその功績は極めて大きい。

略 歴



- 1973 年 山梨大学大学院修士課程修了
- 1973 年 日本電信電話公社（現在の NTT）武蔵野電気通信研究所入社
- 1985 年 工学博士（東京大学）
- 1988 年 日本電信電話（株）電子応用研究所（主幹研究員）退職
- 1988 年 埼玉大学教育学部（技術教育講座）助教授
- 1997 年 埼玉大学教育学部（技術教育講座）教授（～2007 年）
- 2004 年 米国・アリゾナ大学招聘 客員教授（～2006 年）
- 2007 年 九州大学大学院工学研究院（機械工学部門）教授
- 2012 年 九州大学大学院工学研究院 定年退職（九州大学名誉教授・埼玉大学名誉教授）
- 2012 年 九州大学産学連携センター特任教授（～現在）
- 精密工学会フェロー（2007 年度）
- 精密工学会「プラナリゼーション CMP とその応用技術専門委員会」名誉会長（2012 年）